

## 世界史探究 (旧世界史B)

世界史探究 (旧世界史B)

[I] 次の文章を読み、後の問(1～7)に答えよ。

春秋・戦国時代から秦・漢にいたる時期には、のちの中国を形成するさまざまな要素が登場した。

まず、自らが属する領域・文明を「中国」と呼ぶという世界観が形成されたのがこの時期である。「国都」を意味するにすぎなかった「中国」という言葉は、春秋時代には①黄河中下流域を指す「中原」を意味するようになった。さらに、秦の(1)による統一を経て、漢代に北方の遊牧国家である(2)との対立が激化すると、周辺の異民族を「夷狄」として蔑視するとともに②自らの支配領域を「中国」というひとつのまとまりとしてとらえるようになったのである。(1)が修築した万里の長城は、単に防衛施設であるだけでなく中国と夷狄との境界を示す象徴でもあった。

(1)が定めた君主号や、君主を頂点として多くの官僚がこれを支えるという政治体制も、のちの中国歴代王朝に継承された。この政治体制を思想面から支えたのが儒教(儒家)であった。(3)を始祖とする儒教は、当初は③春秋・戦国時代に多数あらわれた政治思想のひとつにすぎなかった。法家思想を重視した秦のあとをうけて漢が成立すると、徐々に④儒家官僚が重視されるようになった。やがて、漢の帝位を奪い(4)という王朝をたてた王莽は、儒教の理想を実現することを目指してさまざまな政策を実行することになる。この非現実的な政策は混乱を生じ、(4)は短命に終わった。(4)の滅亡後に復活した漢王朝を後漢という。

財政・経済に目を転じると、戦国時代には諸国でさまざまな形状の貨幣が用いられていたが、秦は(5)という円形方孔の青銅銭を通用させた。漢は前漢第7代(6)の時代に、形状はそのままに、大きさ・重量を変えた五銖銭を発行した。また、専売制度を実施するとともに、均輸法・平準法を施行して国家による商業活動の統制をはかった。これらの政策は、(6)の時代に(2)との戦争が激化し、軍事費を調達する必要から企画されたものであった。軍事費を確保するためにさまざまな財政政策を行うことはのちの王朝にも見られることである。また、民間の商業活動に国家が介入することの是非はしばしば議論的となった。

学問や著述活動については、司馬遷が著した歴史書である『(7)』は、紀伝体という形式であった。つづく⑤『漢書』にも用いられた紀伝体は、のちの歴代王朝が前王

朝の歴史書を編纂する際にも受け継がれた。これら書物は木簡・竹簡や絹に記されるのが普通であったが、後漢の蔡倫が製紙法を改良し、紙が書写材料として利用されるようになった。

蔡倫は後漢に仕えた ( 8 ) であった。( 8 ) とは後宮に仕える去勢男性であるが、中国歴代王朝のうち、漢・唐・明はその弊害が大きかった時代と言われる。後漢末には ( 8 ) の勢力拡大を批判した儒家官僚が弾圧される党錮の禁がおこり、政治が混乱した。そして、度重なる自然災害に対応できなかった<sup>㉔</sup>後漢政府に対する反乱がおこり、後漢は衰退へと向かったのであった。

問1 空欄 ( 1 ) ~ ( 8 ) にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、「中原」は殷・周という古代王朝がおこった地でもある。殷・周に関する次のア～エの文のうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 殷・周ともに、城壁に囲まれた都市である邑が連合して形成された国家であった。

イ 殷・周ともに、高い技術で製造された青銅器を祭祀に用いていた。

ウ 殷代には、鉄製農具の製造とそれによる農業開発が進行した。

エ 周は、紀元前8世紀前半に内紛などが原因で都を西方の鎬京から東方の洛邑に移した。

問3 下線部②について、一方で漢は当初、郡国制と呼ばれる体制で全国を支配しており、その点では統一された行政区画制度によって統治される「まとまり」ではなかったとも言える。この郡国制とはどのような体制か、40字以内で説明せよ。

問4 下線部③について、これらの政治思想をまとめてなんというか答えよ。

問5 下線部④について、漢代の儒家官僚について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

漢は、地方における評判・名望をもとに地方長官に官僚候補者を推薦させる

a 九品官人法を行い、儒教が説く徳目を重視した人材登用を行った。代表的人物として、君主の政治の善し悪しと自然現象との関係を説く「災異論」を主張した b 董仲舒がいる。

ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤

ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問6 下線部⑤について、『漢書』を著したのは班固であるが、その弟は班超である。班超に関することがらについて述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

後漢の武将であった班超は a 西域都護に任命され、部下の甘英を1世紀末に大秦(ローマ)に派遣した。甘英は大秦にたどり着くことはできなかったが、一方で2世紀半ばに大秦の王の使者を名乗る者が b 陸路で敦煌郡を訪れたという記録がある。

ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤

ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問7 下線部⑥について、この反乱について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

後漢末には a 白蓮教などの民間宗教が広まっていた。これらの宗教集団が困窮した農民を組織化し、184年に b 黄巾の乱をおこした。

ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤

ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、後の問 (1～5) に答えよ。

11世紀後半、トルコ系のイスラーム王朝である ( 1 ) 朝は東地中海沿岸に進出し、聖地イェルサレムを支配下においたのち、アナトリアにも進出した。これに脅威を感じたビザンツ皇帝は、ローマ教皇に援助を求めた。教皇ウルバヌス2世は、1095年、フランス中部の ( 2 ) で教会会議を開き、聖地回復を目的とする十字軍の派遣を提唱した。翌1096年、第1回十字軍が出発し、1099年に聖地の奪回に成功して、イェルサレム王国をはじめとする十字軍国家を建設した。

しかし、12世紀後半にはいと、イェルサレム王国などの十字軍国家は、アイユブ朝の創始者 ( 3 ) に攻撃され、イェルサレムはふたたび奪われた。これに反抗して、①神聖ローマ皇帝・フランス王・イングランド王らが第3回十字軍をおこしたが、聖地を奪回することはできなかった。

13世紀初頭には、教皇権の絶頂期を現出した ( 4 ) のもとで、第4回十字軍がおこされた。しかしこの十字軍は、ビザンツ皇帝家の内紛にまきこまれるかたちでコンスタンティノープルを占領し、( 5 ) を建てた。第6回、第7回十字軍は、フランス王②ルイ9世が主導して北アフリカを攻撃したが、失敗した。1291年に十字軍最後の拠点アッコンが陥落し、聖地回復は結局達成されなかった。

11世紀から13世紀にかけては、十字軍のほかにも、西ヨーロッパ世界の拡大の動きがみられた。イベリア半島では、キリスト教勢力がムスリムの支配する土地の征服をめざす ( 6 ) が進められ、エルベ川以東の地では ( 7 ) により東方植民がおこなわれた。また、ローマやイェルサレム、( 8 ) といった聖地への巡礼も活発化した。経済面では、③地中海を経由する東方貿易が活発になり、④文化面では、ビザンツ帝国やイスラーム圏から文物が流入した。

問1 空欄 ( 1 ) ～ ( 8 ) にあてはまる語句を下の【語群】から選び、記号で答えよ。

【語群】

ア ファーティマ朝      イ クレルモン      ウ コンスタンツ  
エ ラテン帝国      オ レコンキスタ      カ レジスタンス

キ セルジューク朝      ク バイバルス      ケ グレゴリウス7世  
コ テンプル騎士団      サ ドイツ騎士団      シ グラナダ  
ス ニケーア帝国      セ インノケンティウス3世  
ソ サラーフ・アッディーン (サラディン)  
タ サンティアゴ・デ・コンポステーラ

問2 下線部①について、(1) 第3回十字軍に参加したフランス王フィリップ2世と争って、大陸領の大半を失ったイングランド王と、(2) 1215年にイングランド貴族がその王に承認させた勅許状で、王権の制限を定めたものをそれぞれ答えよ。

問3 下線部②について、ルイ9世は南フランスの異端を弾圧して王権を広げたが、その異端を何派というか、答えよ。

問4 下線部③について、地中海交易圏でおこなわれた東方貿易において、(1) 北イタリア諸都市が輸出した代表的な商品と、(2) 東方から輸入した代表的な商品をそれぞれ一つずつ答えよ。

問5 下線部④について、イスラーム文化の中世ヨーロッパへの影響に関する次の文中の空欄 ( X ) と ( Y ) に入れる語の組み合わせとして正しいものを、下のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

イスラーム哲学を体系化した ( X ) は、医学の発展にも貢献し、彼の『医学典範』は、( Y ) に翻訳されて中世ヨーロッパの大学でも利用された。

ア X — ウマル=ハイヤーム      Y — サンスクリット語  
イ X — ウマル=ハイヤーム      Y — ラテン語  
ウ X — イブン=シーナー      Y — サンスクリット語  
エ X — イブン=シーナー      Y — ラテン語

[Ⅲ] 次のA～Gの文章を読み、後の問(1～3)に答えよ。

- A ネーデルラントでは、スペイン王<sup>ア</sup>カルロス1世のカトリック強制政策に抵抗して、1568年、オランダ独立戦争がおこった。南部10州は途中で離脱したが、北部7州は<sup>イ</sup>ユトレヒト同盟を結んで戦い続け、1581年に<sup>ウ</sup>オラニエ公ウィレムを総督とする<sup>①</sup>オランダの独立を宣言し、1609年に事実上の独立を達成した。
- B 神聖ローマ帝国では、1618年、<sup>ア</sup>ベーメン(ボヘミア)のプロテスタントがハプスブルク家のカトリック強制政策に反抗したのをきっかけに、<sup>②</sup>三十年戦争がはじまった。この戦争には<sup>イ</sup>デンマークやスウェーデンが参戦し、傭兵隊長<sup>ウ</sup>グスタフ＝アドルフのひきいる皇帝軍と戦った。
- C イギリスでは、1642年に王党派と議会派のあいだで内戦がおこった。議会派を勝利に導いた<sup>ア</sup>クロムウェルは1649年に国王<sup>イ</sup>チャールズ1世を処刑して共和政を開始し、王党派の拠点になったとして<sup>ウ</sup>ウェールズを征服した。この内戦は、議会派のなかにピューリタンが多かったため、ピューリタン革命とも呼ばれる。
- D フランスの<sup>ア</sup>ルイ14世は、イギリス・オランダ・オーストリア・プロイセンとスペイン継承戦争を戦った。この戦争は1713年の<sup>イ</sup>ユトレヒト条約により講和が結ばれ、スペインにブルボン家の王朝が成立したが、フランスはイギリスに<sup>ウ</sup>ミシシッピ以東の<sup>ルイジアナ</sup>などの北米植民地を割譲した。
- E ロシアでは17世紀後半に<sup>ア</sup>エカチェリーナ2世が即位し、徹底的な西欧化政策をおこなった。ロシアは、スウェーデンのカール12世と<sup>イ</sup>北方戦争を戦い、これに勝利してバルト海の覇権を奪った。戦争中、ロシアはバルト海をのぞむ地に<sup>ウ</sup>ペテルブルクを建設し、首都をモスクワからここに移した。
- F オーストリアでは、<sup>ア</sup>マリア＝テレジアがハプスブルク家の家督をつぐと、プロイセンの<sup>イ</sup>フリードリヒ2世がフランスなどととも女性に相続に異議をとない、1740

年にオーストリア継承戦争がはじまった。プロイセンはこれに勝利して、豊かな鉱工業地帯である<sup>ウ</sup>アルザス・ロレーヌを獲得した。

- G オーストリアが長年敵対してきたフランスと同盟して失地の回復をはかると、1756年に<sup>ア</sup>七年戦争がおこった。プロイセンはイギリスと同盟してこの戦争を戦い、領土を維持した。またこの戦争は、植民地におけるイギリスとフランスの戦争にもつながり、北米では<sup>イ</sup>フレンチ＝インディアン戦争、インドでは<sup>ウ</sup>サラトガの戦いがおこった。

問1 上のA～Gの各文の波線部ア・イ・ウはいずれかに誤りがある。誤っている語句の記号を指摘し、正しい語句を解答欄に記入せよ。

問2 下線部①について、(1)事実上の独立を達成したあとのオランダの首都で、国際商業と金融の中心として繁栄した都市と、(2)「夜警」でオランダ市民を描いた画家をそれぞれ答えよ。

問3 下線部②について、次の文は三十年戦争の講和条約を抜粋したものである。その講和条約の名称と下の条項の内容の組み合わせとして正しいものを、次のA～Eのうちから一つ選び、記号で答えよ。

第5条第1項 (前略) 1555年の宗教和議は、1566年アウクスブルクで、またさらに様々な帝国決定で承認されたように、皇帝および両宗派(カトリックとルター派)の選帝侯、諸侯、等族の全会一致で受け入れられ、可決された条項において有効と宣言される。(中略)

第8条第2項 (前略) しかし、とりわけ個々の等族に、彼らの安全と維持のために、相互に、また外国と同盟を結ぶ権利が今後与えられるべきである。しかし、そのような同盟は、皇帝や帝国、そしてその領邦国家の平和に、またとくにこの平和条約に反しないという条件下で行われるべきである。(中略)

(歴史学研究会編『世界史史料5』。一部改変)

注 等族：神聖ローマ皇帝と直接封建関係を結んだ封臣

講和条約の名称

- あ ウェストファリア条約
- い カルロヴィッツ条約

上の条項の内容

- X アウクスブルクの宗教和議が再確認され、ルター派のほかカルヴァン派が公認された。
- Y 神聖ローマ帝国に反しない限りにおいて、諸侯の領邦国家に独自の外交権が認められた。

ア あ—X      イ あ—Y      ウ い—X      エ い—Y

[IV] 次のA・Bの文章を読み、後の問(1～6)に答えよ。

A 18世紀以降、ムガル帝国が弱体化したインドでは、各地の自立勢力同士の抗争に加え、イギリス・フランス両東インド会社の主導権争いが繰り広げられた。最終的に19世紀半ばにはイギリス東インド会社が全インドに支配を及ぼすようになり、植民地化を進めた。1857年、( 1 ) と呼ばれるインド人傭兵が反乱をおこし、イギリスは鎮圧の過程でムガル皇帝を退位させた。1877年には①イギリス国王がインド皇帝を兼ねるインド帝国が成立し、インドはイギリス領となった。イギリスは、鉄道・電信の整備や英語教育を通じた植民地統治を担う現地の人材養成を進める一方、宗教・②身分などの対立をおおる分割統治を行った。

こうしたイギリスの統治に対して不満が高まると、イギリスは1885年にインド( 2 ) を開いた。インド人エリートを集め、請願の機会を与えることで懐柔をはかるためであった。しかし、かえって民族運動が高まり、( 2 ) 派が形成された。1905年にベンガル分割令が出されると( 2 ) 派は分割令反対とともに4つの綱領からなる抵抗運動を呼びかけた。ベンガル分割令は1911年に撤回された。

20世紀に入ると、第一次世界大戦中にインド産業は発展し、独立運動は大衆にも拡

大した。しかしイギリスは大戦への協力の見返りとして約束していた戦後の自治を認めず、独立運動を取り締まるための( 3 ) 法を施行した。これに対して③ガンディーは非暴力をかかげて反対運動を指導した。イギリスは1935年に新インド統治法を制定し、各州の部分的自治を認めた。

B 欧米諸国は東南アジアにも進出した。イギリスは、19世紀前半にはオランダと協定を結びマレー半島を支配した。イギリスはこの地に海峡植民地を形成し、インドと中国とを結ぶ貿易をさらに促進しようとした。さらにイギリスは( 4 ) にも進出し、この地のコンバウン朝を滅ぼし、1886年に( 4 ) 全土をインド帝国に併合した。( 4 ) はのちの日中戦争の際に、( 5 ) が率いる重慶国民政府にアメリカ・イギリスが物資を援助するルートの一つとして利用されることになる。

オランダは現在のインドネシアにあたる地域にオランダ領東インド植民地を築いていた。また、④ベトナムに進出したフランスは清と戦い、1885年にベトナムに対するフランスの保護権を清に認めさせ、インドシナ半島東部にフランス領インドシナ連邦を形成した。⑤これらの地域では20世紀に入ると民族運動・独立運動がおこった。一連の運動は宗主国の弾圧を受け1930年代には下火になっていくが、これらにたざざわった指導者たちから、第二次世界大戦後の独立運動においても重要な役割を果たす者があらわれるのであった。

問1 空欄( 1 )～( 5 )にあてはまる語句をそれぞれの語群から選び、記号で答えよ。

空欄	語群		
( 1 )	ア シバーヒー	イ イェニチュェリ	ウ 常勝軍
( 2 )	ア 植民地会議	イ 国民会議	ウ 国民議会
( 3 )	ア ローラット	イ ホルテンシウス	ウ 治安維持
( 4 )	ア ビルマ(ミャンマー)	イ カンボジア	ウ タイ
( 5 )	ア 孫文	イ 蒋介石	ウ 毛沢東

問2 下線部①について、この時期のイギリス国王およびイギリスについて述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

a エリザベス1世統治下のイギリスでは、b グラッドストンの自由党とディズレーリの保守党が交互に政権を担う議会政党政治が展開した。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤  
ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問3 下線部②について、イギリスは従来からインド社会に存在した職業集団を固定化し、ヒンドゥー教のヴァルナと結びつけ上下関係を強調することで社会の分断を助長した。このような職業集団をなんというか答えよ。

問4 下線部③について、ガンディーの運動に参加し、のちに第二次世界大戦後に独立したインドの初代首相となった人物の名前を答えよ。

問5 下線部④について、ベトナムについて述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

19世紀はじめに a 陳朝がおこり、清に朝貢し、b 「大越」という国号を受けた。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤  
ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問6 下線部⑤について、インドネシア・ベトナムの民族運動・独立運動に関する次のア～エの文のうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア インドネシアでは1911年にサレカット＝イスラム（イスラーム同盟）が設立された。

イ インドネシアではスカルノが1927年にインドネシア国民党を結成し、インドネシア民族主義をかかげた。

ウ ベトナムではファン＝ボイ＝チャウが日本留学を推進し、日本もその要請に応じてベトナムの民族運動を長期的に支持した。

エ ベトナムではホー＝チ＝ミンが1930年にベトナム共産党を結成した。